

第1編 総論

第1章 計画の趣旨

市は、市民の生命、身体及び財産を保護する責務にかんがみ、国民の保護のための措置（以下「保護措置」という。）を的確かつ迅速に実施するため、以下のとおり、市の責務を明らかにするとともに、芦屋市国民保護計画（以下「市保護計画」という。）の基本的考え方や計画の目的、対象等計画の趣旨について定める。

1 計画作成に当たっての基本的考え方

市は、以下の基本的考え方のもと、市保護計画を作成する。

(1) 国民保護法制の役割

平成16年9月17日に施行された武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律（平成16年法律第112号。以下「国民保護法」という。）は、武力攻撃事態等から国民を守る仕組みを定めたものであり、この法律をはじめ武力攻撃事態対処法など一連の有事法の施行によって、関係機関の有事における活動を事前に明確にしておく枠組みができたと言える。国民保護法を実効性あるものにするため、この計画を作成するものである。

(2) 市民の保護の確立

この計画は、市が、市民の生命、身体及び財産を守る立場から、これまでの経験や教訓を活かし、市民の自由と権利を尊重しつつ、武力攻撃事態等から市民を保護するための活動を行い、もって有事における市民の安全と安心を確立するために作成するものである。

(3) 国際平和のための取組と武力攻撃事態等への備え

国の平和と国民の安全を確保するためには、諸外国との良好な協調関係の確立や国際社会との協力などにより、武力攻撃の発生を未然に防ぐことが何よりも重要である。

市においても、国際平和を希求する立場から、芦屋市議会決議による非核平和都市宣言や市民の有志団体による平和モニュメントの建設を行うとともに、市民団体等による国際交流に努めてきたところである。

しかしながら、こうした平和への努力を重ねてもなお、万一、武力攻撃や大規模テロが発生したときは、市は、市民の生命、身体及び財産を守る必要があるため、この計画を作成するものである。

(4) 阪神・淡路大震災等の教訓の反映

武力攻撃事態への対応は、原因の意図性、攻撃の反復性などの点で自然災害や事故災害との違いはある。しかしながら、市民の安全を確保するための方策においては共通する部分も多いことから、計画の作成に当たっては、備えの大切さや助け合いの精神など阪神・淡路大震災をはじめとする危機事案における教訓を踏まえた芦屋市地域防災計画（以下「地

域防災計画」という。)等に基づくこれまでの取組の蓄積を最大限に取り入れるとともに、地域防災計画との整合を図るよう努める。

2 計画の目的

市保護計画は、武力攻撃事態等から市民の生命、身体及び財産を保護し、市民生活や市民経済への影響が最小となるよう、市民の避難、避難住民等の救援、武力攻撃災害への対処などの保護措置を的確かつ迅速に実施することを目的とする。

3 市の責務 <法第3条>

市(市長及びその他の執行機関をいう。以下同じ。)は、武力攻撃事態等において、国民保護法その他の法令、国民の保護に関する基本指針(平成17年3月閣議決定。以下「基本指針」という。)及び兵庫県国民保護計画(以下「県保護計画」という。)を踏まえ、市保護計画に基づき、市民の協力を得つつ、他の機関と連携協力し、自ら保護措置を的確かつ迅速に実施し、市域において関係機関が実施する保護措置を総合的に推進する。

【市が実施する保護措置】 <法第16条>

- (ア) 警報の伝達、避難実施要領の策定、関係機関の調整その他の市民の避難に関する措置
- (イ) 救援の実施、安否情報の収集及び提供その他の避難住民等の救援に関する措置
- (ウ) 退避の指示、警戒区域の設定、消防、廃棄物の処理、被災情報の収集その他の武力攻撃災害への対処に関する措置
- (エ) 水の安定的な供給その他の市民生活の安定に関する措置
- (オ) 武力攻撃災害の復旧に関する措置

4 計画に定める事項 <法第35条>

市保護計画においては、市域に係る保護措置の総合的な推進に関する事項、市が実施する保護措置に関する事項等国民保護法第35条第2項各号に掲げる事項について定める。

【市保護計画に定める事項】

- (ア) 市域に係る保護措置の総合的な推進に関する事項
- (イ) 市が実施する保護措置に関する事項
- (ウ) 保護措置を実施するための訓練並びに物資及び資材の備蓄に関する事項
- (エ) 保護措置を実施するための体制に関する事項
- (オ) 保護措置の実施に関する他の地方公共団体その他の関係機関との連携に関する事項
- (カ) 上記のほか、市域に係る保護措置に関し市長が必要と認める事項

5 計画の対象

市保護計画においては、国籍に関係なく市域内に居住している人はもとより、通勤、通学、旅行等で市域内に滞在する人や市域内に避難してきたすべての人及び市域内において活動を行うすべての法人その他の団体(これらを以下「市民」という。)を保護の対象とする。

6 計画の構成

市保護計画は、以下の各編より構成する。

第1編 総論

第2編 平素からの備えや予防

第3編 武力攻撃事態等への対処

第4編 復旧等

第5編 緊急対処事態における対処

資料編

7 計画の見直し、変更

(1) 計画の見直し <法第35条>

市保護計画については、今後、国における保護措置に係る研究成果や新たなシステムの構築、県保護計画の見直し、保護措置についての訓練の検証結果等を踏まえ、必要な見直しを行う。

市保護計画の見直しに当たっては、芦屋市国民保護協議会（以下「市国民保護協議会」という。）の意見を尊重するとともに、広く関係者の意見を求めるものとする。

(2) 計画の変更手続 <法第39条>

市保護計画の変更にあたっては、計画作成時と同様、国民保護法第39条第3項の規定に基づき、市国民保護協議会に諮問の上、知事に協議し、市議会に報告し、公表するものとする。ただし、武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律施行令（以下「施行令」という。）で定める軽微な変更については、市国民保護協議会への諮問及び知事への協議は要しない。

【軽微な変更】 <施行令第5条>

- (ア) 行政区画若しくは市内の町の名称変更，地番の変更又は住居表示に関する法律第3条第1項及び第2項若しくは同法第4条の規定による住居表示の実施若しくは変更に伴う変更
- (イ) 指定行政機関，指定地方行政機関，都道府県，市町，指定公共機関，指定地方公共機関その他の関係機関又はその組織の名称又は所在地の変更に伴う変更
- (ウ) 上記のほか，誤記の訂正，人又は物の呼称の変更，統計の数値の修正その他これらに類する記載事項の修正に伴う変更

第2章 基本方針

市は、保護措置を的確かつ迅速に実施するに当たり、特に留意すべき事項について、以下のとおり、保護措置に関する基本方針として示す。

1 市民の基本的人権の尊重 <法第5条>

市は、保護措置の実施に当たっては、日本国憲法の保障する国民の自由と権利を最大限に尊重することとし、市民の自由と権利に制限が加えられるときであっても、その制限は必要最小限のものに限り、公正かつ適正な手続の下に行う。

2 市民の権利利益の迅速な救済 <法第6条>

市は、保護措置の実施に伴う損失補償、保護措置に係る不服申立て又は訴訟その他の市民の権利利益の救済の手続について、これらの手続をできる限り迅速に処理するよう努める。

3 市民に対する情報提供 <法第8条>

市は、武力攻撃事態等においては、市民に対し、保護措置に関する正確な情報を、適時に、かつ、適切な方法で提供する。

4 関係機関相互の連携協力の確保 <法第3条>

市は、国、県、近隣市町並びに関係指定公共機関及び関係指定地方公共機関（以下「指定公共機関等」という。）と平素から相互の連携体制の整備に努める。

5 市民の協力 <法第4条>

市は、国民保護法の規定により保護措置の実施のため必要があると認めるときは、市民に対し、必要な援助について協力を要請する。この場合において、市民の自発的な意思を尊重し、強制にわたることのないようにする。

また、市は、消防団及び自主防災組織の充実・活性化、ボランティアへの支援に努める。

6 指定公共機関等の自主性の尊重その他の特別な配慮 <法第7条>

市は、日本赤十字社が実施する保護措置については、その特性にかんがみ、その自主性を尊重するとともに、放送事業者である指定公共機関等が実施する保護措置については、放送の自律を保障することにより、その言論その他表現の自由に特に配慮する。

指定公共機関等の保護措置の実施方法については、指定公共機関等が武力攻撃事態等の状況に即して自主的に判断するものであることに留意する。

7 高齢者、障がい者、外国人等への配慮及び国際人道法の的確な実施 <法第9条>

市は、保護措置の実施に当たっては、高齢者、障がい者、外国人その他特に配慮を要する者の保護について留意する。

また、市は、保護措置を実施するに当たっては、国際的な武力紛争において適用される国

際人道法の的確な実施を確保する。

8 保護措置に従事する者及び協力する者の安全の確保 <法第22条>

市は、保護措置に従事する者の安全の確保に十分に配慮するものとする。

また、要請に応じて保護措置に協力する者に対しては、その内容に応じて安全の確保に十分に配慮する。

9 地域防災計画の活用

市保護計画は、基本指針において想定されている武力攻撃事態等に対処するためのものである。

これに対し、災害対策基本法(昭和36年法律第223号)第42条の規定に基づき作成されている地域防災計画は、災害対策基本法第2条第1号に定める、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象又は大規模な火事若しくは爆発その他その及ぼす被害の程度において、これらに類する政令で定める原因により生ずる被害に対処するものである。

このように市保護計画と地域防災計画では、法体系及び災害の発生原因は異なるものの、その災害の状態及び災害への対処には類似性がある。

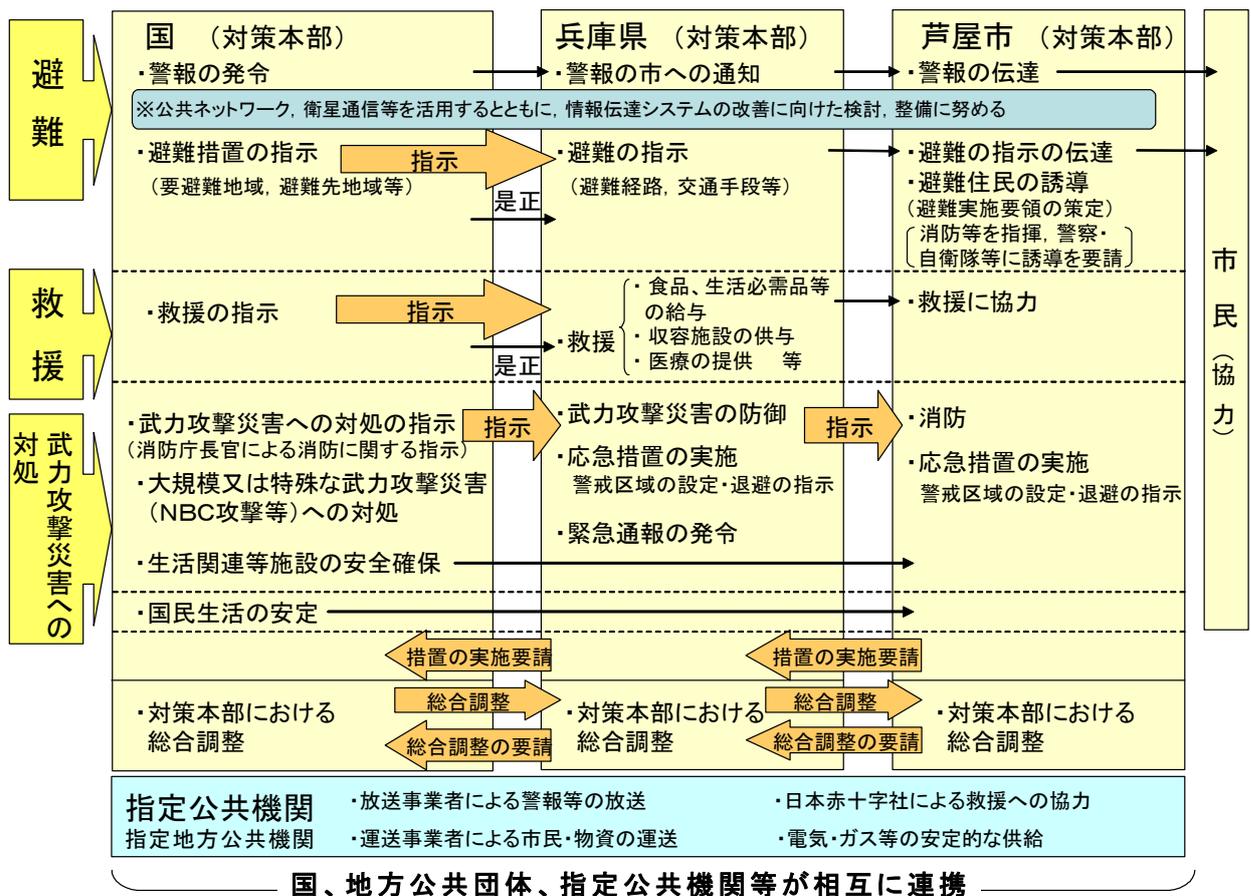
また、地域防災計画に基づく防災のための体制、物資、資機材等については共通するものが多いことから、相互に連携し有効に活用する。

第3章 関係機関の事務又は業務の大綱及び連絡先

市は、保護措置の実施に当たり関係機関との円滑な連携を確保できるよう、国民保護法における市の役割を確認するとともに、関係機関の事務又は業務の大綱及び関係機関の連絡窓口をあらかじめ把握しておく。

【保護措置の全体の仕組み】

国民の保護に関する措置の仕組み



1 関係機関の事務又は業務の大綱

【地方公共団体】

機関の名称	事務又は業務の大綱
芦屋市	1 市保護計画の作成 2 市国民保護協議会の設置，運営 3 国民保護対策本部及び緊急対処事態対策本部の設置，運営 4 組織の整備，訓練 5 警報の伝達，避難実施要領の策定，避難住民の誘導，関係機関の調整その他の市民の避難に関する措置の実施 6 救援の実施，安否情報の収集及び提供その他の避難住民等の救援に関する措置の実施 7 退避の指示，警戒区域の設定，消防，廃棄物の処理，被災情報の収集その他の武力攻撃災害への対処に関する措置の実施 8 水の安定的な供給その他の市民生活の安定に関する措置の実施 9 武力攻撃災害の復旧に関する措置の実施
兵庫県	1 県保護計画の作成 2 県国民保護協議会の設置，運営 3 国民保護対策本部及び緊急対処事態対策本部の設置，運営 4 組織の整備，訓練 5 警報の通知 6 市民に対する避難の指示，避難住民の誘導に関する措置，県の区域を越える市民の避難に関する措置その他の市民の避難に関する措置の実施 7 救援の実施，安否情報の収集及び提供その他の避難住民等の救援に関する措置の実施 8 武力攻撃災害の防除及び軽減，緊急通報の発令，退避の指示，警戒区域の設定，保健衛生の確保，被災情報の収集その他の武力攻撃災害への対処に関する措置の実施 9 生活関連物資等の価格の安定等のための措置その他の県民生活の安定に関する措置の実施 10 交通規制の実施 11 武力攻撃災害の復旧に関する措置の実施

【自衛隊】

機関の名称	事務又は業務の大綱
[陸上自衛隊] 中部方面隊 [海上自衛隊] 呉地方隊・舞鶴地方隊 [航空自衛隊] 中部航空方面隊	1 武力攻撃事態等における保護措置の実施及び関係機関が実施する保護措置の支援等

【指定地方行政機関】

機関の名称	事務又は業務の大綱
近畿管区警察局	1 管区内各府県警察の保護措置及び相互援助の指導・調整 2 他管区警察局との連携 3 管区内各府県警察及び関係機関等からの情報収集並びに報告連絡 4 警察通信の確保及び統制
近畿中部防衛局	1 所管財産（周辺財産）の使用に関する連絡調整 2 米軍施設内通行等に関する連絡調整
近畿総合通信局	1 電気通信事業者・放送事業者への連絡調整 2 電波の監督管理、監視並びに無線の施設の設置及び使用の規律に関する こと 3 非常事態における重要通信の確保 4 非常通信協議会の指導育成
近畿財務局 神戸財務事務所	1 地方公共団体に対する災害融資 2 金融機関に対する緊急措置の指示 3 普通財産の無償貸付 4 被災施設の復旧事業費の査定の立会
神戸税関	1 輸入物資の通関手続
近畿厚生局	1 救援等に係る情報の収集及び提供
兵庫労働局	1 被災者の雇用対策
近畿農政局	1 武力攻撃災害対策用食料及び備蓄物資の確保 2 農業関連施設の応急復旧
近畿中国森林管理局	1 武力攻撃災害対策用復旧用資材の調達・供給
近畿経済産業局	1 救援物資の円滑な供給の確保 2 商工鉱業の事業者の業務の正常な運営の確保 3 被災中小企業の振興
中部近畿産業保安監督部近畿支部	1 電気、火薬類、都市ガス、高圧ガス、液化石油ガス施設等の保全 2 鉱山における災害時の応急対策

機関の名称	事務又は業務の大綱
近畿地方整備局	1 被災時における直轄河川，国道等の公共土木施設の応急復旧 2 港湾施設の使用に関する連絡調整 3 港湾施設の応急復旧
近畿運輸局	1 運送事業者への連絡調整 2 運送施設及び車両の安全保安
神戸運輸監理部	1 運送事業者への連絡調整 2 運送施設及び船舶の安全保安
大阪空港事務所	1 飛行場使用に関する連絡調整 2 航空機の航行の安全確保
東京航空交通管制部	1 航空機の安全確保に係る管制上の措置
神戸地方气象台	1 気象状況の把握及び情報の提供
西宮海上保安署	1 船舶内に在る者に対する警報及び避難措置の指示の伝達 2 海上における避難住民の誘導，秩序の維持及び安全の確保 3 生活関連等施設の安全確保にかかる立ち入り制限区域の指定等 4 海上における警戒区域の設定等及び退避の指示 5 海上における消火活動及び被災者の救助・救急活動，その他の武力攻撃災害への対処に関する措置
近畿地方環境事務所	1 有害物質等の発生等による汚染状況の情報収集及び提供 2 廃棄物処理施設等の被害状況，がれき等の廃棄物の発生量の情報収集

【指定公共機関等】

機関の名称	事務又は業務の大綱
[放送事業者] (指定公共機関) (指定地方公共機関)	1 警報及び避難の指示（警報の解除及び避難の指示の解除を含む。）の内容並びに緊急通報の内容の放送 日本放送協会，朝日放送(株)，(株)毎日放送，関西テレビ放送(株)， 読売テレビ放送(株)，大阪放送(株) (株)サンテレビジョン，兵庫エフエム放送(株)，(株)ラジオ関西
[運送事業者]	1 避難住民の運送及び緊急物資の運送 2 旅客及び貨物の運送の確保
ア 国内旅客船事業者 (指定公共機関) (指定地方公共機関)	(株)フェリーさんふらわあ，阪九フェリー(株)， マルエーフェリー(株) 明石淡路フェリー(株)，(株)淡路ジェノバライン，高速いえしま(株)， ジャンボフェリー(株)，沼島汽船(株)，坊勢汽船(株)
イ バス事業者 (指定公共機関) (指定地方公共機関)	西日本JRバス(株)，日本交通(株)，阪急バス(株)，阪神バス(株) 淡路交通(株)，神姫バス(株)，全但バス(株)，山陽電気鉄道(株)， 六甲摩耶鉄道(株)

機関の名称	事務又は業務の大綱
ウ 航空事業者 (指定公共機関)	ANAウイングス(株), (株)AIRDO, (株)スターフライヤー, スカイマーク(株), 全日本空輸(株), 日本航空(株), 日本トランスオーシャン航空(株)
(指定地方公共機関)	日本エアコミューター(株), 但馬空港ターミナル(株)
エ 鉄道事業者 (指定公共機関)	西日本旅客鉄道(株), 阪急電鉄(株), 阪神電気鉄道(株)
(指定地方公共機関)	北近畿タンゴ鉄道(株), 神戸高速鉄道(株), 神戸新交通(株), 神戸電鉄(株), (一財)神戸すまいまちづくり公社, 山陽電気鉄道(株), 智頭急行(株), 能勢電鉄(株), 北条鉄道(株), 北神急行電鉄(株), WILLERTRAINS(株), 六甲摩耶鉄道(株)
オ 内航海運事業者 (指定公共機関)	井本商運(株)
カ トラック事業者 (指定公共機関)	佐川急便(株), 西濃運輸(株), 日本通運(株), 福山通運(株), ヤマト運輸(株), (指定地方公共機関) (一社)兵庫県トラック協会
[電気通信事業者] (指定公共機関)	1 避難施設における電話その他の通信設備の臨時の設置における協力 2 通信の確保及び保護措置の実施に必要な通信の優先的取扱い 西日本電信電話(株), NTTコミュニケーションズ(株), KDDI(株), ソフトバンクテレコム(株), (株)NTTドコモ関西, ソフトバンクモバイル(株)
[電気事業者] (指定公共機関)	1 電気の安定的な供給 関西電力(株), 電源開発(株), 電力広域的運営推進機関
[ガス事業者] (指定公共機関)	1 ガスの安定的な供給 大阪ガス(株)
(指定地方公共機関)	(一社)兵庫県LPガス協会
[日本郵政公社]	1 郵便の確保
[病院その他の医療機関] (指定公共機関)	1 医療の確保 (独)国立病院機構
(指定地方公共機関)	(一社)兵庫県医師会
[河川管理施設, 道路の管理者] (指定公共機関)	1 河川管理施設, 道路の管理 (独)水資源機構
(指定地方公共機関)	西日本高速道路(株), 阪神高速道路(株), 本州四国連絡高速道路(株) 神戸市道路公社, 兵庫県道路公社, 芦有ドライブウェイ(株)
日本赤十字社	1 救援への協力 2 外国人の安否情報の収集, 整理及び回答

日本銀行	1 銀行券の発行並びに通貨及び金融の調節 2 銀行その他の金融機関の間で行われる資金決済の円滑の確保を通じた信用秩序の維持
------	--

2 関係機関の連絡先

関係機関の連絡先については、計画の資料編に記載する。

なお、関係機関の連絡先については、本計画とは別に一覧表を作成しておくこととし、随時、最新の情報への更新を行うよう留意する。

第4章 芦屋市の地理的、社会的特徴

市は、保護措置を適切かつ迅速に実施するため、その地理的、社会的特徴等について確認することとし、以下のとおり、保護措置の実施に当たり考慮しておくべき本市の地理的、社会的特徴等について示す。

1 地形

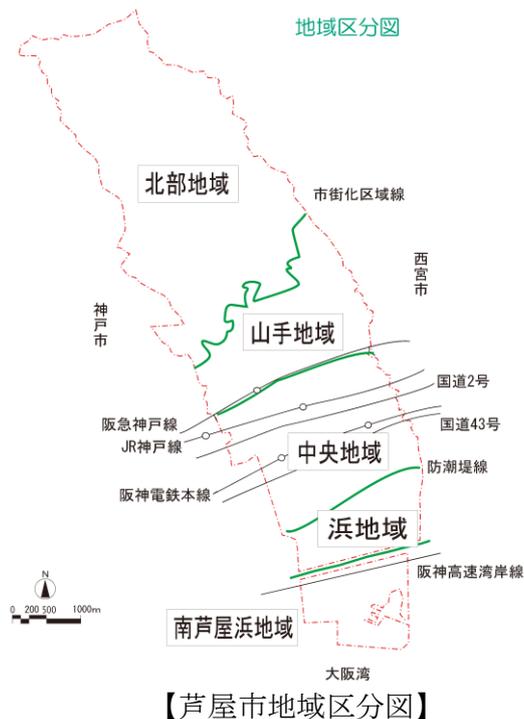
芦屋市は、兵庫県南部の阪神間に位置し、東側を西宮市と、西側を神戸市に接する。また、市の都市計画区域面積は、全体で約 18.57 km²である。

地形構造は、大きく分類すると山地部と平坦部、埋立地からなり、山地部の六甲山を頂点に南北に細長いひな壇型を呈する。

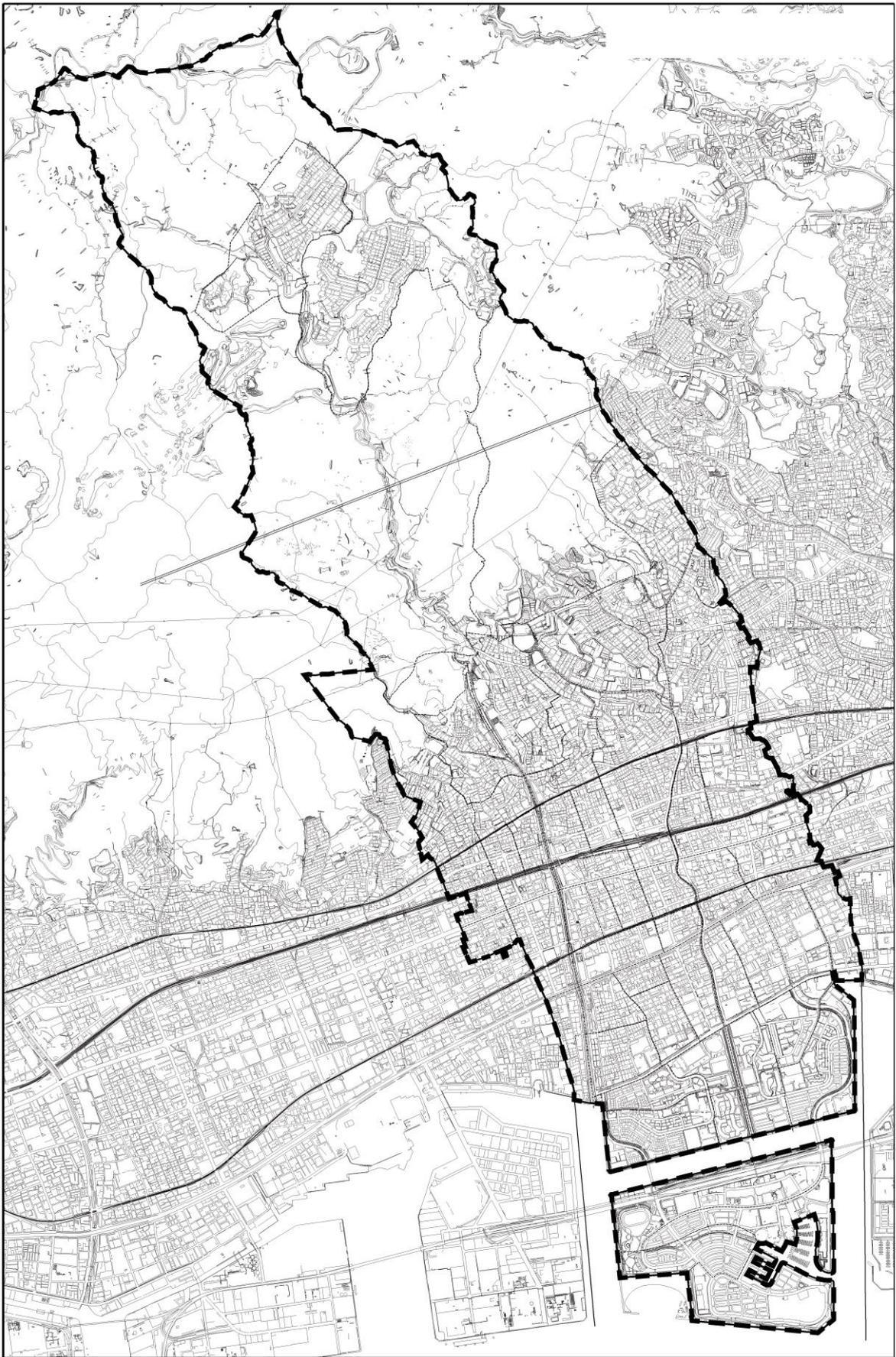
山地部にある六甲山地は、ロックガーデンなどの独特の自然景観をつくり出しており、その大半が瀬戸内海国立公園六甲地域に指定されている。一方でこれらの山地部は、傾斜が急なひな壇型の地形構造であり、緑地保全や防災上の観点から市街化が難しく、現在も市街化調整区域として設定されている。

市街地は、概ね標高 100m 以下の平坦部で形成され、芦屋川、宮川の2河川が大阪湾へ注いでいる。平坦部では、六甲山地の裾野を形成している山麓地域（山手地域）と、芦屋川の扇状地等からなる平坦市街地域（中央地域）、埋立地である芦屋浜地域（浜地域）と沖地域（南芦屋浜地域）に区分される。このようなひな壇型の地形であるが故に、山地側、海側の両方からの眺望を良くしている。

また、市街地からは、六甲山地を身近に感じられ、山麓部からは、市街地から大阪湾までを一望に見渡すことができる。



【地形図】



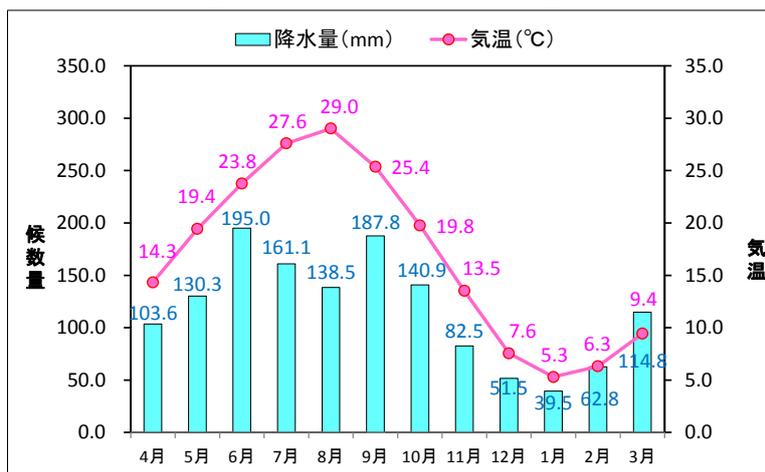
2 気候

芦屋市の気候は、「瀬戸内海式気候」に属しており、温暖で比較的降水量も少ない。

また、年間日数の約7割に当たる260日が「快晴」や「晴れ」の日となっており、晴天日数が多いことが特徴である。

芦屋市消防本部で計測した過去6年間の降水量及び気温の測定結果より、本市における年間降雨量は、約1,200mm前後、年平均気温は、17℃程度を示すことが分かっている。

【芦屋市の気温及び降水量】



(出典：芦屋市消防本部「気象統計」平成21年～平成26年の6箇年の月別平均値)

3 人口の分布状況

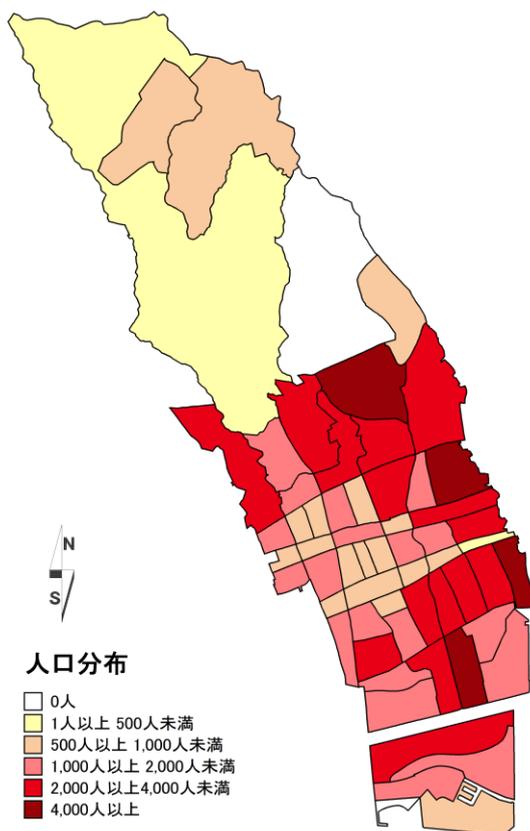
(1) 芦屋市の人口及び地域ごとの人口

人口平成 28 年 1 月 1 日現在の本市の総人口は、96,748 人（男 44,037 人、女 52,711 人）である。

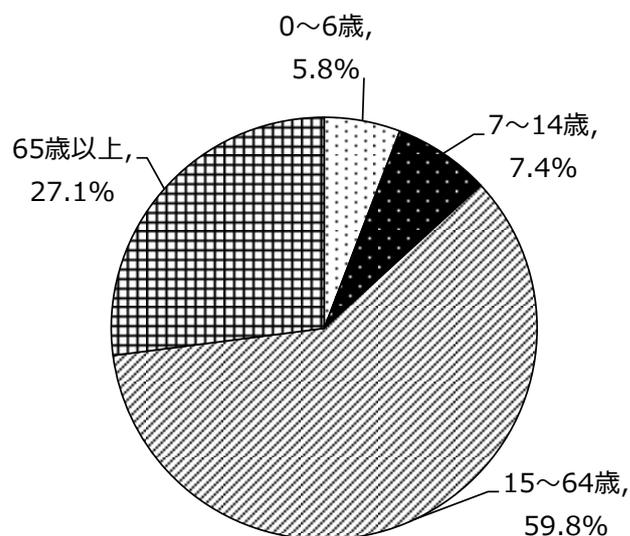
【年齢構成別の人数と世帯数】

区 域	総数	男性	女性	年齢階層別人口 (人)					世帯数 (世帯)
	合計 (人)	小計 (人)	小計 (人)	0～6	7～14	15～64	65～	小計	
芦屋市 (全体)	96,748	44,037	52,711	5,592	7,138	57,844	26,174	96,748	44,358
北部地域	1,774	793	981	73	98	969	634	1,774	829
山手地域	22,527	10,294	12,233	1,199	1,761	13,702	5,865	22,527	10,062
中央地域	54,033	24,467	29,566	3,336	3,958	32,981	13,758	54,033	25,095
浜地域	12,948	6,011	6,937	537	743	7,396	4,272	12,948	5,868
南芦屋地域	5,466	2,472	2,994	447	578	2,796	1,645	5,466	2,504

(出典：平成 28 年 1 月 1 日現在 芦屋市統計)



【人口分布図】



【芦屋市全体の年齢別構成比率】

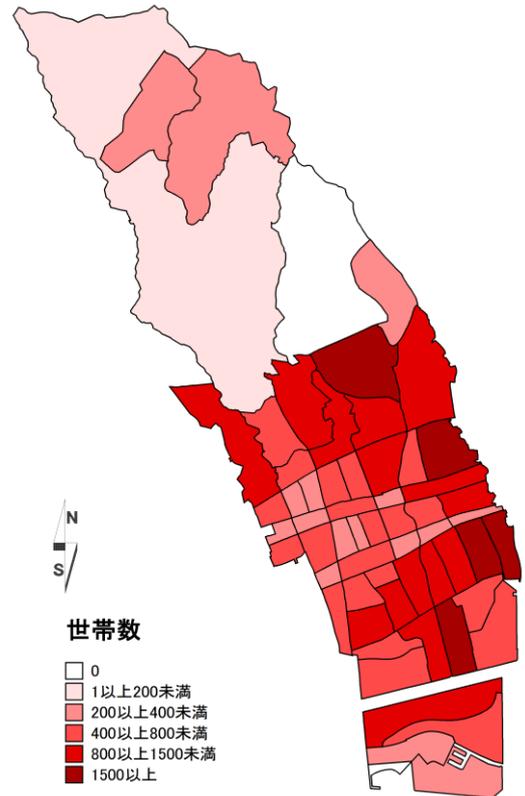
市内の町ごとの人口分布状況より、本市の人口分布は山手地域、中央地域、浜地域に集中していることが分かる。

市全体の年齢別の構成比率は、6歳未満の小学校就学前児童が 5,592 人、6歳以上 14歳未満の義務教育終了前児童が 7,138 人とそれぞれ全体の 5.8%と 7.4%を占め、65歳以上の高齢者が 26,174 人と全体の 27.1%を占める。

町ごとの世帯数の面からも、山手地域、中央地域、浜地域に人口が集中していることが読み取れる。

人口分布、年齢別構成及び世帯数について国民保護での視点から考えた場合には、人口分布が高いところは、同時に世帯数も多く、この地域での避難方法を考える際には、避難者の誘導と同時に家族への避難誘導の情報提供のあり方についても検討をしておく必要がある。

また、市全体で乳幼児及び高齢者の比率は、両方合わせて32.8%を占めており、加えて、避難行動要支援者として、乳幼児、高齢者及び障がい者の人数は約3千人であることから、乳幼児、高齢者、障がい者等に配慮した避難誘導を実施することが重要である。



【世帯数】

(2) 外国人登録者

外国人登録者を地域ごとに整理すると、山手地域及び中央地域に大半が住んでおり、市全体での人口分布が高く表示された地域と合致する。

【外国人の地域ごとの人数】

区 域	総数 (人)
芦屋市 (全体)	1,578
北部地域	48
山手地域	366
中央地域	645
浜地域	413
南芦屋浜地域	106

(平成28年1月1日現在芦屋市統計)

国籍別に外国人を分類した場合、韓国・朝鮮籍及び中国籍の人が全外国人の約6割近い人数を占める。

市保護計画には、市民への訓練の参加を含めた周知活動を行うことが大切な要素となることから、外国人への周知方法の一つとしてパンフレット等の作成時には、日本語のみならず他言語を併記するなどの特別な配慮が重要となる。

4 鉄道・バスの状況

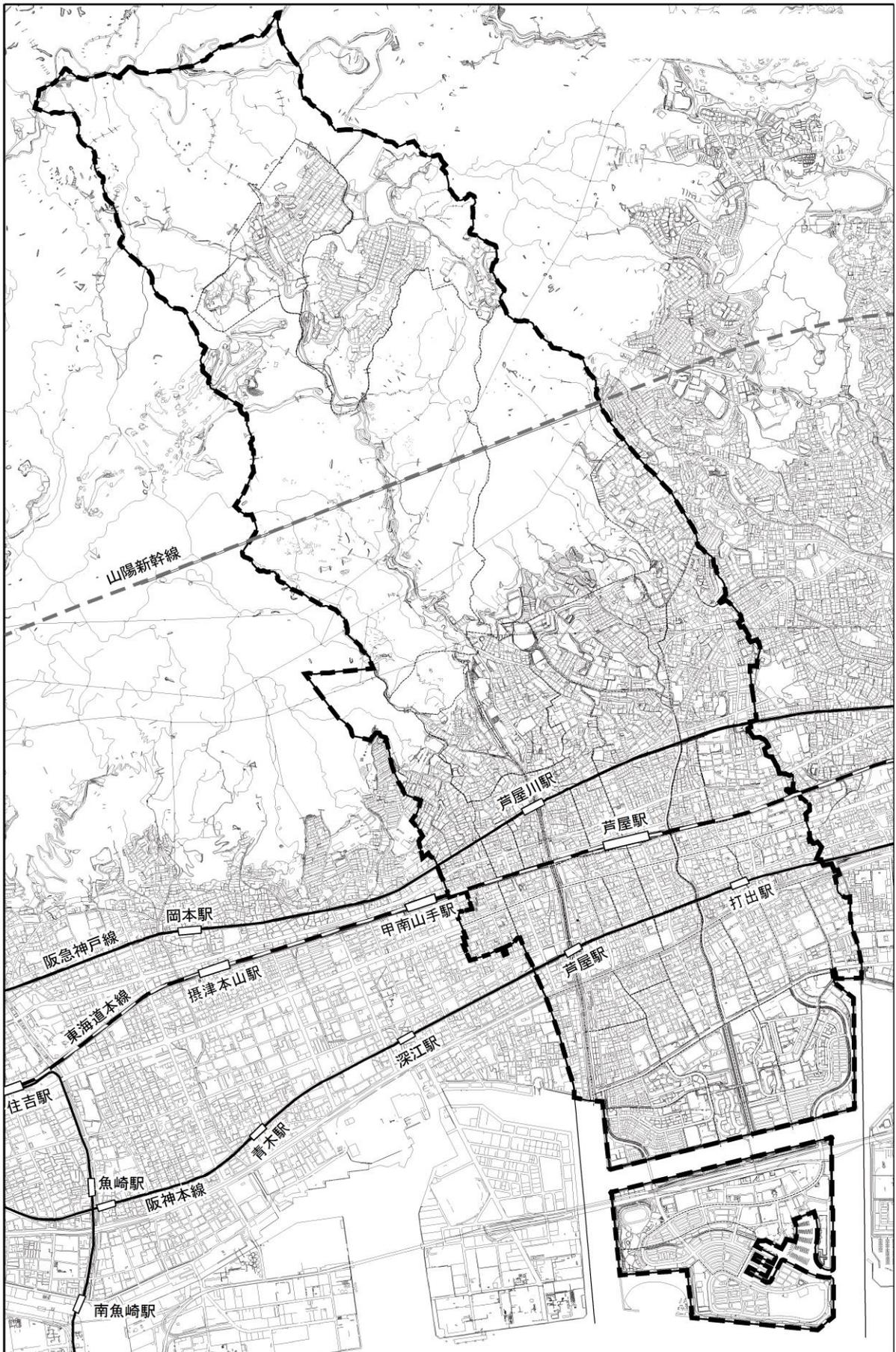
市内に路線を有する鉄道事業者は、西日本旅客鉄道株式会社(以下「JR西日本」という。)、阪急電鉄株式会社(以下「阪急電鉄」という。)、阪神電鉄株式会社(以下「阪神電鉄」という。)の3社である。JR西日本は、新幹線及び東海道本線が、阪急電鉄では阪急神戸本線が、阪神電鉄では阪神本線が走行している。このうち、新幹線以外は市内に乗降駅がある。

また、市内におけるバス事業者は、阪急バス株式会社1社であるが、国道2号において阪神バス株式会社が神戸市及び西宮市方面に運行されている。

【市内を走行する鉄道の状況】

事業者名	路線名	市内にある駅
JR西日本	東海道本線	芦屋
阪急電鉄	阪急神戸本線	芦屋川
阪神電鉄	阪神本線	芦屋, 打出

【市周辺の鉄道路線図】



5 道路の状況

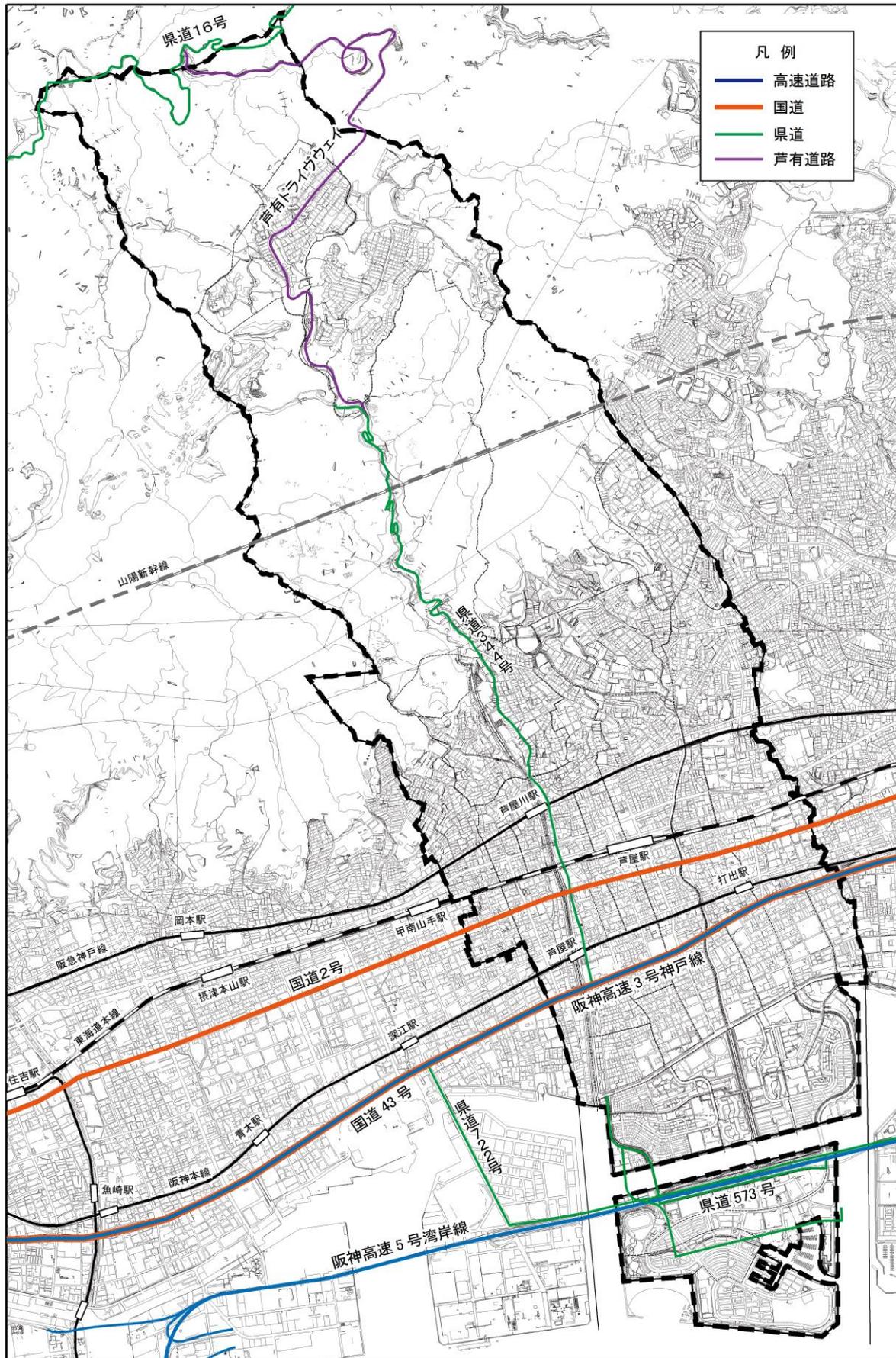
市内の主要な道路は、隣接する都市を結ぶ高速道路、県道が整備され充実しているが、市内を南芦屋浜地域から北部地域まで南北に貫く幹線道路については、県道 344 号のみ整備されている。

【主要な道路の状況】

道路 (路線名称)	所属名	道路種別	総延長 (Km)	幅員(m)	
				最大	最小
阪神高速 5 号 湾岸線	阪神高速道路株式会社	高速道路	7.2	26.8	26.8
阪神高速 3 号 神戸線	阪神高速道路株式会社	高速道路	5.3	19.8	19.8
国道 2 号	国土交通省近畿地方整備局 兵庫国道事務所	一般国道	2.4	19.8	19.5
国道 43 号	国土交通省近畿地方整備局 兵庫国道事務所	一般国道	2.1	27.8	27.3
県道 45 号 芦屋停車場線	兵庫県	主要地方道	0.5	7.5	7.5
県道 344 号 奥山精道線	兵庫県	県道	5.1	7.5	5.5
県道 573 号 芦屋鳴尾浜線	兵庫県	県道	3.3	8.0	8.0
市道 779 号線 山手幹線	芦屋市	市道	2.4	34.0	22.0

(出典：兵庫県道路台帳)

【芦屋市内を走る主要な道路】



6 港湾の状況

市南芦屋浜地域に位置する尼崎西宮芦屋港は、昭和44(1969)年に重要港湾尼崎港、地方港湾西宮港、56条港湾芦屋港を統合して設立された港湾で、尼崎港区、西宮港区、芦屋港区の3港によって構成されている。

尼崎西宮芦屋港は、阪神工業地域の中心として発展し、隣接する西側の神戸港、東側の大阪港が国際貿易港であるのに対し、主に国内物流港湾として重要な役割を担っている。阪神・淡路大震災により港湾施設などに著しい被災を受けたが、阪神高速5号湾岸線へのアクセスの利便性などを生かし、新たな産業の集積が進んでいる。

尼崎西宮芦屋港における南芦屋浜地域の位置付けとしては、阪神間の海洋性レクリエーションの拠点としても活発に利用され、ウォーターフロントを生かした海に親しむ街づくりの中核として、マリナーが整備されている。その東側護岸については、大型船舶も接岸できる耐震護岸となっており、海路からの大量輸送が可能となっている。

第5章 計画が対象とする事態

市保護計画においては、以下のとおり基本指針及び県保護計画において想定されている武力攻撃事態等及び緊急処理事態を対象とする。

なお、市内における具体的な事態の想定や、本市の地理的、社会的状況を踏まえた留意点等については、今後も県及び国からの情報を踏まえ、関係機関と連携しながら、研究・検討していく。

1 武力攻撃事態等

市保護計画においては、武力攻撃事態等として、基本指針及び県保護計画において想定されている事態を対象とする。

(1) 武力攻撃事態等の定義

武力攻撃事態等及び存立危機事態における我が国の平和と独立並びに国及び国民の安全の確保に関する法律（以下「事態対処法」という。）第2条による武力攻撃事態等（武力攻撃事態及び武力攻撃予測事態）の定義は、以下のとおりである。

ア 武力攻撃事態

武力攻撃が発生した事態又は武力攻撃が発生する明白な危険が切迫していると認められるに至った事態

イ 武力攻撃予測事態

武力攻撃事態には至っていないが、事態が緊迫し、武力攻撃が予測されるに至った事態

なお、基本指針においては、以下に掲げる4類型が対象として想定されている。

- (ア) 着上陸侵攻
- (イ) ゲリラや特殊部隊による攻撃
- (ウ) 弾道ミサイル攻撃
- (エ) 航空攻撃

(2) 武力攻撃事態の類型

武力攻撃事態の想定は、武力攻撃の手段、その規模の大小、攻撃パターンなどにより異なることから、武力攻撃事態の想定がどのようなものとなるかについて一概に言えないが、保護措置の実施に当たって留意すべき事項を明らかにするため、基本指針においては、次の4つの類型が想定され、その特徴及び留意点が示されている。なお、これらの事態は複合して起こることが多いと考えられる。

事態の類型	特徴，留意点
着上陸侵攻	<p>【攻撃目標となりやすい地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 船舶により上陸を行う場合は，上陸用の小型船舶等が接岸容易な地形を有する沿岸部が当初の侵攻目標となりやすい。 航空機により侵攻部隊を投入する場合は，大型の輸送機が離着陸可能な空港が存在する地域（特に当該空港が上陸用の小型船舶等の接岸容易な地域と近接している場合）が目標となりやすい。 着上陸侵攻に先立ち航空機や弾道ミサイルによる攻撃が実施される可能性が高い。 <p>【想定される主な被害】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主として，爆弾，砲弾等による家屋，施設等の破壊，火災等が考えられ，石油コンビナートなど，攻撃目標となる施設の種類によっては，二次被害の発生が想定される。 <p>【被害の範囲・期間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般的に保護措置を実施すべき地域が広範囲になるとともに，その期間も比較的長期間に及ぶことが予想される。 <p>【事態の予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> 敵国による船舶，戦闘機の集結の状況，我が国へ侵攻する船舶等の方向等から，予測が可能である。 <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の準備が可能であり，戦闘が予想される地域から先行して避難させるとともに，広域避難が必要となるため，国対策本部長の具体的な避難措置の指示を踏まえ，適切に対応する必要がある。 広範囲にわたる武力攻撃災害が想定され，武力攻撃が終結した後の復旧が重要な課題となる。
ゲリラや特殊部隊による攻撃	<p>【攻撃目標となりやすい地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市部の政治経済の中核，鉄道，橋りょう等に対する注意が必要である。 海岸から潜入した後，攻撃目標へ移動することが考えられる。 <p>【想定される主な被害】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数のグループにより行われるため使用可能な武器も限定されることから，施設の破壊等が考えられる。 NBC兵器やダーティボム（放射性物質を散布することにより放射能汚染を引き起こすことを意図した爆弾）が使用される場合がある。 <p>【被害の範囲・期間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 被害は比較的狭い範囲に限定されるのが一般的であるが，攻撃目標となる施設の種類によっては，二次被害の発生も想定される。 <p>【事態の予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> 警察，自衛隊等による監視活動等により，その兆候の早期発見に努めることとなるが，攻撃者もその行動を秘匿するため，事前にその活動を予測あるいは察知できず，突発的に被害が生ずることも考えられる。 <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 危害が市民に及ぶおそれがある地域においては，武力攻撃の態様に応じて，攻撃当初は屋内に一時避難させ，その後，関係機関が安全の措置を講じつつ適当な避難地に移動させる等適切な対応を行う。 事態の状況により，知事の緊急通報の発令，市長又は知事の退避の指示又は警戒区域の設定など時宜に応じた措置を行うことが必要である。

事態の種類	特徴，留意点
弾道ミサイル攻撃	<p>【攻撃目標となりやすい地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発射の兆候を事前に察知した場合でも、発射された段階で攻撃目標を特定することは極めて困難である。 <p>【想定される主な被害】</p> <ul style="list-style-type: none"> 通常弾頭の場合には、家屋、施設等の破壊、火災等が考えられる。 <p>【被害の範囲・期間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 弾頭の種類（通常弾頭又はNBC弾頭）を着弾前に特定することは困難であるとともに、弾頭の種類に応じて、被害の様相及び対応が大きく異なる。 <p>【事態の予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> 極めて短時間で我が国に着弾することが予想される。 <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 迅速な情報伝達体制と適切な対応によって被害の拡大を抑制することが重要である。 警報と同時に近傍のコンクリート造り等の堅ろうな施設や地下街等の地下施設など屋内へ避難させ、着弾後、被害状況を迅速に把握したうえで、事態の態様、被害の状況等に応じ、他の安全な地域への避難の指示を行う。
航空攻撃	<p>【攻撃目標となりやすい地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 航空攻撃を行う側の意図及び弾薬の種類等により異なるが、その威力を最大限に発揮することを敵国が意図すれば、都市部が主要な目標となることが想定される。 ライフラインのインフラ施設が目標となることも想定される。 <p>【想定される主な被害】</p> <ul style="list-style-type: none"> 通常弾頭の場合には、家屋、施設等の破壊、火災等が考えられる。 <p>【被害の範囲・期間】</p> <ul style="list-style-type: none"> その意図が達成されるまで繰り返し攻撃が行われることも考えられる。 <p>【事態の予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> 弾道ミサイル攻撃の場合に比べその兆候を察知することは比較的容易であるが、対応の時間が少なく、また攻撃目標を特定することが困難である。 <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 攻撃の目標地を限定せずに屋内への避難等の避難措置を広範囲に指示する必要がある。 生活関連等施設に対する攻撃がある場合は、被害が拡大するおそれがあるため、特に当該施設の安全確保、武力攻撃災害の発生・拡大の防止等の措置を実施する必要がある。

※ 大規模な着上陸侵攻やその前提となる反復した航空攻撃等の本格的な侵略事態における避難及び救援については、事前の準備が可能である一方、保護措置を実施すべき地域が広範囲となり、県域を越える避難に伴う我が国全体としての調整等が必要となるため、国対策本部長の具体的な避難措置の指示を待って対応することを基本とする。

このため、平素から、大規模な着上陸侵攻にかかる避難及び救援を想定した具体的な対応を定めておくことは困難であり、今後、国の具体的な指示を踏まえて迅速な対応がとれるよう、必要な対応について、研究・検討を進める。

(3) NBC攻撃の対応

武力攻撃事態において、NBC攻撃（核兵器等又は生物剤若しくは化学剤を用いた兵器による攻撃）が行われた場合は、それぞれの特徴に応じた特殊な対応に留意する必要がある。

攻撃の種類	特徴，留意点
核兵器等	<p>【想定される主な被害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 核爆発によって、熱線、爆風及び初期核放射線が発生し、物質の燃焼、建造物の破壊、放射能汚染の被害を短時間にもたらす。 ・ 放射性降下物（放射能をもった灰）は、爆発による上昇気流によって上空に吸い上げられ、拡散、降下するため、熱線や爆風による被害よりも広範囲の地域に被害が拡大する。 ・ 放射性降下物の皮膚への付着による外部被ばく、あるいは放射性降下物の吸飲や汚染された飲料水や食物の摂取による内部被ばくにより、放射線障害が発生するおそれがある。 ・ デーティボムは、核兵器に比して小規模ではあるが、爆薬による爆発の被害と放射能による被害をもたらす。 <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 核攻撃等においては、避難住民等（運送に使用する車両及びその乗務員を含む。）の避難退域時検査及び簡易除染その他放射性物質による汚染の拡大を防止するため必要な措置を講じる必要がある。 ・ 熱線による熱傷や放射線障害等、核兵器特有の傷病に対する医療が必要となる。 ・ 避難に当たっては、風下方向を避け、手袋、帽子、ゴーグル、雨ガッパ等により、少なくとも放射性降下物の皮膚への付着を抑えるとともに、口及び鼻を汚染されていないタオル等で保護するほか、汚染された疑いのある水や食物の摂取を避けるなど、被ばくを防止することが重要である。 ・ 放射性ヨウ素による体内汚染が予想されるときは、安定ヨウ素剤の服用等により内部被ばくの低減に努める必要がある。 ・ 汚染地域への立入制限を確実にし、救急救助活動や医療活動にあたる要員の被ばく管理を適切にすることが重要である。
生物兵器	<p>【想定される主な被害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生物剤は、人に知られることなく散布が可能であり、また潜伏期間に感染者が移動することにより、散布判明時には、既に被害が拡大している可能性がある。 ・ 生物剤の特性（ヒトからヒトへの感染力、ワクチンの有無、既に知られている生物剤か否か等）により被害の範囲が異なるが、ヒトを媒体とする生物剤による攻撃の場合、二次感染により被害が拡大することが考えられる。 <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国（厚生労働省）及び県は、一元的情報収集、データ解析等サーベイランス（疾病監視）により、感染源及び汚染地域を特定し、感染源となった病原体の特性に応じた医療活動及びまん延防止を行うことが重要である。

化学兵器	<p>【想定される主な被害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般に化学剤は、地形・気象等の影響を受け、風下方向に拡散し、空気より重いサリン等の神経剤は下をほうように広がる。 ・ 特有のにおいがあるもの、無臭のもの等、その性質は化学剤の種類によって異なる。 <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原因物質の検知及び汚染地域の特定又は予測を行い、市民を安全な風上の高台に誘導する等、適切な避難措置が必要である。 ・ 汚染者については、可能な限り除染し、原因物質の特性に応じた救急医療を行うことが重要である。 ・ 化学剤はそのままでは分解・消滅しないため、汚染された地域を除染して、原因物質を取り除くことが重要である。
------	--

2 緊急処理事態

(1) 緊急処理事態の定義

事態対処法第22条による緊急処理事態の定義は、以下のとおりである。

【緊急処理事態】

武力攻撃の手段に準ずる手段を用いて多数の人を殺傷する行為が発生した事態又は当該行為が発生する明白な危険が切迫していると認められるに至った事態（後日対処基本方針において武力攻撃事態であることの認定が行われることとなる事態を含む。）で、国家として緊急に対処することが必要なもの。

(2) 緊急処理事態の分類

緊急処理事態としては、武力攻撃事態におけるゲリラや特殊部隊による攻撃等における対処と類似の事態が想定される。基本指針においては、事態例として、攻撃対象施設等又は攻撃の手段の種類により、以下のものが想定されている。

① 攻撃対象施設等による分類

分類	事態例	被害の概要
危険性を内在する物質を有する施設等に対する攻撃が行われる事態	原子力事業所等の破壊	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大量の放射性物質等が放出され、周辺住民が被ばく ・ 汚染された飲食物を摂取した市民が被ばく
	石油コンビナート・可燃性ガス貯蔵施設等の爆破	<ul style="list-style-type: none"> ・ 爆発及び火災の発生により市民に被害が発生 ・ 建物、ライフライン等が被災し、社会経済活動に支障
	危険物積載船への攻撃	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険物の拡散による沿岸市民への被害が発生 ・ 港湾及び航路の閉塞、海洋資源の汚染等社会経済活動に支障
	ダム破壊	ダムの下流に多大な被害が発生

多数の人が集合する施設、大量輸送機関等に対する攻撃が行われる事態	<ul style="list-style-type: none"> 大規模集客施設・ターミナル駅等の爆破 列車等の爆破 	爆破による人的被害が発生し、施設が崩壊した場合には人的被害は多大
----------------------------------	--	----------------------------------

②攻撃手段による分類

分類	事態例	被害の概要
多数の人を殺傷する特性を有する物質等による攻撃が行われる事態	ダーティボム等の爆発による放射能の拡散	<ul style="list-style-type: none"> 爆弾の破片及び飛び散った物体による被害並びに熱及び炎による被害等が発生 ダーティボムの放射線による細胞機能のかくらんにより、後年にガン発症の可能性あり 小型核爆弾については、核兵器の特徴と同様
	炭疽菌等生物剤の航空機等による大量散布	生物剤の特徴については、生物兵器の特徴と同様
	市街地等におけるサリン等化学剤の大量散布	化学剤の特徴については、化学兵器の特徴と同様
	水源地に対する毒素等の混入	毒素の特徴については、化学兵器の特徴と類似
破壊の手段として交通機関を用いた攻撃等が行われる事態	<ul style="list-style-type: none"> 航空機等による多数の死傷者を伴う自爆テロ 弾道ミサイル等の飛来 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の破壊に伴う人的被害が発生（施設の規模によって被害の大きさが変化） 攻撃目標である施設周辺への被害も予想 爆発、火災等の発生により市民に被害が発生 建物、ライフライン等が被災し、社会経済活動に支障